

Go!Gol はジュニアゴルファー育成を応援しています。

# ジュニアゴルファーのいる風景

ここ数年、練習場やコースで、一生懸命クラブを振るジュニアの姿をよく目にするようになった。今月は、そんなジュニアゴルファー育成や教育に関連した3つの取り組みをご紹介します。

取材・文/清水由佳、野村明子 撮影/木下トナル、清水一也]



アーリーバード  
ジュニア生  
昇級試験  
at  
おおむらさきゴルフ倶楽部

## 本格的コースで 日頃の成果を試す

9月23日(火) 秋分の日、「おおむらさきゴルフ倶楽部」に、43名のジュニアゴルファーが集合。日頃、埼玉県のゴルフ練習場・アーリーバードでレッスンを受けているジュニア生たちだ。この日は、2008年最後の昇級試験の日。自分のクラブや砂袋などをチェックする子どもたちの表情は、真剣そのものだ。

「グリーン場で10ヤードのパッティングだけの初級から、通常のティーグラウンドから5ホール・パレーをを目指す特段まで、12の級・段に分かれています。それぞれが、日頃の努力の成果を出し、学んでいるマナーを実践する貴重な機会です」

とは、指導を担当する三橋知徳ティーチングプロ。礼儀正しく挨拶をし、続々とフェアウェイに出て行く子どもたちの背中を、真剣に目標に向かう頼もしさにあふれていた。



スタートは、一般のゴルファーがホールアウトし始める午後2時30分頃。2〜3名ずつのジュニア生に、学校のティーチングプロや保護者のボランティアが一組になって回る。



場所を提供してくださったゴルフ場への感謝の気持ちも込めて、まずは練習場のボール拾いから。広い練習場にいっぱいあったボールも、あっという間にきれいになる。



昇級試験に合格すると、それぞれのクラスのワッペンをもらえる。ジュニア生たちのキャップには、色とりどりのワッペンが誇らしげに。



目土をする砂袋やグリーンフォークも必携。そのマナーの良さは、大人も見習わなければ…。

# 「自立・自活、想像力、人間交流。これが子育ての3本柱です」

昇級試験が実施されている時間を利用して、『プロの親』セミナーと題した保護者向けの講演会も開催された。この日は、子どものメンタルに注目した子育てに関する特別講座。講師は、メンタルアナライザーとして、多くの引きこもりや不登校などのメンタル障害に苦しむ子どもとその保護者のカウンセリングを行っている宮内一郎氏。

「メンタル障害で苦しむ多くの子どもたちと接してきて、その原因は、大きく2つあると実感しました。そのひとつは、親からの刷り込み。『あれしちゃダメ。そんなみつともない真似してはいけません』と常に言葉が続け、その子らしさを発揮できないような刷り込みですね。もうひとつは、人間交流体験の少なさ。この両者が背景にある子どもが、メンタル障害に苦しむことがとても多い。つまり、メンタル障害者を減らすに

は、親がまず子どもとの接し方を変えなくてはなりません」と、冒頭から保護者のドキッとするような話から始まった講演。しかし、具体的な事例やご自身の体験などを交えた話には説得力があり、参加した保護者の方々も、大きくうなずきながら話に聞き入る。

「子育てには、大切な3本柱があります。まずは、自立と自活を促します。子どもができることは、できる限り自分でやらせましょう。忘れ物が多いからといって、代わりに持ち物チェックなんてしていませんか？

2つ目は、想像力をつけてあげる。想像力が一番発揮されるのは、子どもが一番楽しいことをしているとき。特にいたずらは、子どもにとって最高の楽しみなんです。その機会を皆さん、摘んでしまっていないか？ 3つ目は、人間交流の機会をたくさん作る。あれをしてはダメ、これをやってはいけないと、子どもの活動範囲を狭めていませんか？ これらのことを実践していくと、子どもは急に成長し、逆に手がかからなくなる。楽になるための子育てを、ぜひ実践してください」と、ここでは紹介しきれない充実した1時間半が、あつという間に過ぎていった。



## 宮内一郎氏

メンタルアナライザー

1955年生まれ。メンタルケア協会スペシャリストカウンセラー。沖縄国際ショナルスクール顧問講師をはじめ、さまざまな施設・教育機関での講師を務める。官庁などの講演も多数。3つのデータで分析するイチロウ式「3Dインサイト」創案者。著書に『人の心がわかる本』（アークヒューマン出版）がある。



## 体験保護者コメント

「1日中、あれしちゃうダメ、これしちゃうダメと、ダメダメばかり言っていたかかと反省しました。まずは、やらせることも大事なんです。親目線ではなく、子ども目線で考えられるようになりたいと思います。二人の子どもたちは、いつも楽しそうにスクールに通っています。特に、昇級試験でワッペンをもらえるのが、励みになっているようです」

長倉照恵さん（写真右）  
※小1と年長の二人のお母さんが昇級試験に挑戦。



「下の子どもがとても引っこみ思案なのが心配だったので、考えをみたら、私自身が可愛さのあまり手を出しすぎていたのかも反省しました。これから子育てを変えてみようかなと思います。上の子はもともと明るい性格ですが、スクールに通うようになって、より人前ですっきり声を出し、きちんと挨拶ができるようになったと思います」

川岸治子さん（写真左）  
※中2と小1の二人のお母さんが昇級試験に挑戦。

「しつけは大事だと思っていますが、いたずらにも価値があるのです。しつけと思っても、親が一方的に都合を押し付けていることもあったように思いました。将来やりたいこととできることがわかる大人になつてほしいというのは、まったく同感です。だからこそ、今やっていることをしっかりと楽しんでほしい。今は、ゴルフをとても楽しんでるよ」

通伝順子さん  
※6のお兄ちゃんがスクール生。





① 集合の声で、走って集まる子どもたち。説明を聞く表情は真剣そのもの。② ボール集めも一所懸命。使った道具は次の人のために片づけるということを学ぶ。③ みんな揃って記念撮影。いい笑顔だ。④ バンカー練習も本格的。深いバンカーからも一発で出せてしまう。⑤ 「ほら、こうすると力が入るよね」平山コーチがわかりやすく教える。⑥ 2パットで入らなかったら、腕立てを5回だよ！最初は1回もできなかった子ども、回数を重ねるうちにできるように。⑦ できたらきちんとほめてあげることは、子どもにとっては大切なやる気の元になる。ハイタッチも上手。



撮影協力

イーグルスゴルフ

横浜市都筑区東山田町 1514-1

045-592-6226

レッスンのお問合せは

株式会社 Tee time

AL's Pro Golf Academy 045-350-8560

<http://teetime13.com>

ジュニアレッスン  
イベント開催

at

イーグルスゴルフ

広い練習場で  
のびのびレッスン

イーグルスゴルフ（横浜市）で、パッティンググリーン、バンカー付きアプローチグリーンでのレッスンイベントが行われた。都心近郊でこれだけの設備をジュニアのレッスンに提供しているところは珍しい。4歳から中学2年生までのレッスン生15人が集まった。

このレッスンで最も大切に行っていることは、スイングなどの技術よりも目標設定だという。自分で、短期長期の目標を設定し、達成度を毎回ノートに記録する。ゴルフというスポーツを通して、人間的成長ができたらいよいよコーチの平山勲プロの考えからだ。

全国的にはジュニア向けのゴルフイベントは増えているものの、技術的に参加が難しかったり、保護者同伴となるため経済的にも負担が大きくなりがちだ。平山プロは、ジュニアプレイヤー人口増加のために、地域の学校のクラブ活動にゴルフを取り入れてもらえるよう教育委員会や練習場への協力を呼びかけもしている。